

令和7年度第10回 感染症発生動向調査協議会

令和8年1月21日

月番：馬場 尚志

1 前月の感染症発生動向について（2025年第49週～52週・12月）

<全数把握対象疾患>

2類

- 結核が19例報告あり。発症者14例のうち7例が30歳未満であった（10歳代1例、20歳代6例）。2025年累計は291例と前年と同数（対前年比100%）であったが、発症者は193例と対前年比86.2%であった。年代別にみると20歳代が78例と最も多かったが、発症者では80歳代が56例で最も多かった。

3類

- 腸管出血性大腸菌感染症が1例報告あり（2025年累計の対前年比60.5%）。

4類

- つつが虫病が7例報告あり（2025年累計の対前年比72.7%）。
- E型肝炎が1例報告あり（2025年累計の対前年比325.0%）。

5類

- 百日咳が28例報告あり。2025年累計は1011例であり、対前年比10110%であった。年代別にみると10～14歳が388例、次いで5～9歳が235例、15～19歳が119例の順に多かったが、0歳25例を含むすべての年代で報告された。
- 梅毒が17例報告あり（2025年累計の対前年比135.5%）。うち16例が早期顕症で、男性12例、女性4例であった。
- 侵襲性肺炎球菌感染症が6例報告あり（2025年累計の対前年比119.5%）。すべて65歳以上の成人で、ワクチン接種歴なし、もしくは不明であった。
- 後天性免疫不全症候群が2例報告あり（2025年累計の対前年比75%）。
- 水痘（入院例）が2例報告あり（2025年累計の対前年比161.5%）。
- その他、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎（A型、E型を除く）、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性脳炎、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、破傷風が、それぞれ1例ずつ報告あり。

<定点把握対象疾患>

- インフルエンザは、県全体では前月（第48週）をピークに漸減傾向がみられ、第52週は定点あたり報告数19.4まで減少した。
- 新型コロナウイルス感染症は、定点あたり報告数が1.6～2.1の間で推移した。
- 急性呼吸器感染症（ARI）は、インフルエンザと同じく前月（第48週）をピークに漸減傾向がみられ、第52週は定点あたり報告数53.4まで減少した。
- 性感染症定点疾患は、同期累計で見ると、性器ヘルペスウイルス感染症と淋菌感染症は減少、性器クラミジア感染症と尖圭コンジローマは同じレベルで推移している。

2 検討すべき課題

- ・ 病原体検出情報のフィードバックや発信のあり方について
 - 急性呼吸器感染症（ARI）からの検出病原体、百日咳菌におけるマクロライド耐性、など
- ・ 愛知・名古屋アジア競技大会・アジアパラ競技大会（9月・10月）への備え、その必要性について（4月以降に？）
- ・ インフルエンザ定点・COVID-19 定点から急性呼吸器感染症（ARI）定点への移行の影響について
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の届出基準の変更による影響について

3 情報提供すべき事項

- ・ 2025年の発生動向調査の結果から注目される感染症について
 - 麻疹、ダニ媒介感染症（重症熱性血小板減少症候群、日本紅斑熱）、百日咳、伝染性紅斑、梅毒

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 令和7年度岐阜県予防接種研修会
 - 日時：2026年3月2日（月）14時～16時
 - 場所：岐阜市文化センター 小劇場
 - 対象：県内予防接種行政担当者、実施担当者

<検討結果>